

稜友

April 2014, No.232



高谷池ヒュッテからの火打山(撮影 佐藤 (康))

新潟稜友会

Home page http://homepage3.nifty.com/niigata_ryoyu/

巻頭言

最近、仕事が忙しくてコンスタンスに山へ行けなくなった。お陰様で仕事の方は楽しくやれているのだが、それでも山へ行けないのはストレスである。先日、仕事中であったが、猛烈に山登りをしたい衝動にかられ、急遽、前日の夕方に会社のスタッフを誘い守門岳に登って来た。

久しぶりに登る山は清々しく、「やっぱり山はいいなあ～」という月並みな言葉が妙にじっくり来て、山行中、何度もその言葉をつぶやいた。真っ青な空と白い雪のコントラストが気持ちよく、大岳の頂で深呼吸をしただけで一気にストレスが吹き飛んだ。

しばらくは、ハードな山行はなかなか行けそうにないが、ちょっとした登山でも、今の自分にはストレスをリセットさせるだけの効果は充分にある。これからは、少しでも時間をつくる努力をして、山に出向きたいと強く思った一日であった。

「やっぱり山はいいなあ～」

(小杉 敬)

次回の巻頭言は鈴木さんです。よろしく！

2014年 例会年間予定

| 例会日 | 担当 | 例会内容 | 備考 |
|--------------|----|--------------|----|
| 1月15日(水) | | 公募登山の準備 | |
| 2月19日(水) | | 公募登山の準備 | |
| 3月19日(水) | | 事故発生時の対応 | |
| 4月16日(水) | | | |
| 5月21日(水) | | | |
| 6月18日(水) | | | |
| 7月16日(水) | | | |
| 8月20日(水) | | | |
| 9月17日(水) | | | |
| 10月15日(水) | | | |
| 11月19日(水) | | 総会の議題協議 | |
| 12月6、7日(土・日) | | 6日-忘年会、7日-総会 | |
| 12月17日(水) | | | |

2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

| 月 | 今月のコラム(*) | 巻頭言 | 編集担当者 | 原稿締切日 |
|-----|-----------|-------|-------|----------|
| 1月 | 大島 | 海老名 | 大島 | 1/04(土) |
| 2月 | 海老名 | 大島 | 大島 | 2/08(土) |
| 3月 | 金子 | 小川 | 大島 | 3/08(土) |
| 4月 | 佐藤(孝) | 小杉 | 大島 | 4/05(土) |
| 5月 | 設楽 | 鈴木 | 関川 | 5/10(土) |
| 6月 | 杉田 | 関川 | 三木 | 6/07(土) |
| 7月 | 須藤 | 橋本(寅) | 関川 | 7/05(土) |
| 8月 | 中村 | 肥后(明) | 関川 | 8/09(土) |
| 9月 | 橋本(聡) | 丸山(和) | 三木 | 9/06(土) |
| 10月 | 橋本(寅) | 三木 | 小川 | 10/04(土) |
| 11月 | 丸山(和) | 大西 | 肥后(明) | 11/08(土) |
| 12月 | 大西 | 金子 | 大島 | 12/06(土) |

(*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

2014年公募体験登山が以下のように決まりました。

| 時期 | 山行内容 | 担当 | 予定候補 |
|--------|-------------|--------|---------|
| 3月9日 | 雪山体験、スノーハイク | 金子 | 川内山塊宝蔵山 |
| 4月13日 | 早春トレッキング | 関川 | 八石山 |
| 5月11日 | クライミング体験 | 海老名 | 杉滝岩 |
| 8月31日 | 沢登り体験 | 海老名 | 三国川十字峡 |
| 10月19日 | 紅葉トレッキング | 金子 | 信越トレイル |
| 11月16日 | 初冠雪トレッキング | 金子、海老名 | 谷川岳天神尾根 |

稜友会ホームページにも掲載されていますので、内容を確認して下さい。

担当は変更される場合もあります。

山行報告

| 日程 | 山域(形態) | メンバー |
|---------|-----------------|----------------------|
| 2/1 | 戸隠・九頭竜山(山スキー) | 須藤、三浦(ぶなの会)、松岡(RSSA) |
| 2/22 | 秋山郷・鳥甲山(山スキー) | 須藤、三浦(ぶなの会) |
| 3/1 | 突鷄峰(山スキー) | 佐藤(康) |
| 3/2 | 平標山(山スキー) | 須藤、三浦、松岡、蒔田(熊谷山旅会) |
| 3/4 | 妙高山・東壁(山スキー) | 須藤、三浦 |
| 3/12 | 平湯・大崩山(山スキー) | 須藤、三浦、松岡 |
| 3/16 | 野谷荘司(山スキー) | 佐藤(康)、他会多数 |
| 3/17 | 尾瀬・燧ヶ岳(山スキー) | 須藤、三浦、松岡、蒔田 |
| 3/22 | 柄沢山(山スキー) | 佐藤(康) |
| 3/22 | 八ヶ岳赤岳東面・杣添川南沢左俣 | 須藤、三浦、松岡 |
| 3/23 | 黒菱山(山スキー) | 佐藤(康)、他会3人 |
| 3/28 | 鳥海山千蛇谷(山スキー) | 須藤(単独) |
| 3/29 | 雨飾山(山スキー) | 佐藤(康)、他会2人 |
| 3/21、22 | キナバル山 | 伊藤滋生 |

戸隠・九頭竜山・南東ルンゼ(山スキー)

2014/2/1

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)

戸隠スキー場から遠望できる九頭竜山は急峻な岩稜とそれに分けられるルンゼ群で構成されその山容は圧巻である。そのルンゼ滑降は雪の落ち着いた春にはいくつかの記録を目にするが厳冬期の記録を見ない。数年来その機会を窺がいてトライを試みてきたが今回条件に恵まれ1本のルンゼ滑降を成し遂げた。

厳冬期、戸隠の稜線へスキーでのアプローチは限られる。未知の滑降ラインを狙ううえでは滑降ラインを下から詰める手段があるが、雪が安定した春ならともかく厳冬期では雪崩のリスクが大きく採るべき手段ではない。一般的な五地蔵山からの尾根ルートでは時間が掛りすぎ、九頭竜山周辺の尾根は登攀対象で考える余地はない。そんな中で比較的安全で可能性のあるルートは一不動へ登る夏道しかない。沢沿いではあるが降雪中や降雪直後を

除けば雪崩のリスクは少ない。

夜明け前、戸隠キャンプ場を出発し一不動へ。スキーでのラッセルは足首～脛、2日前の降雪は深い所で50cm程あるが昨日1日で安定している。途中の滝は右岸尾根から巻く。一不動までスキーを脱ぐことなく登ることができた。天候は晴天、今日は気温が上がる予報、先を急ぐ。稜線上は樹林が濃くスキーには適さないがクートを付けしばらくはスキーで登れる。右手には高妻山が高く聳え立っている。888mピーク手前までスキーを使うものの尾根は痩せ、雪の付きも悪いのでアイゼンに切り替える。背負ったスキーがブッシュに引っかかるや雪の踏み抜きで一気にペースダウン。九頭竜山手前のコルへの下降は雪稜登攀にならないメンバーもいるので念のためロープを使用する。

このコルからのルンゼはエスケープルートの一つ。スキーヤーズレフトのランペからノールとなって落ち込んでいる。狙っているルンゼと傾斜は変わらないが雪崩のリスクは若干少ないと思われる。

九頭竜山への登りは再度スキーを使う。ピーク手前の肩からは切り立った岩稜と急峻なルンゼが交互に食い込んでいる。本命は九頭龍山三角点から南東に直接落ち込むルンゼ。上から覗き込むと50度の斜面からさらに傾斜の強い狭い斜面が50m程ノールとなって落ち込んでいる。この斜面さえ攻略できればその下は狭いながらもパウダーが溜まったルンゼで何とかなる。しかしながら50度超の斜面は雪の付きが悪い、スラブ状岩盤に氷が張り付いているだけ。懸垂ポイントは作れそうにない。遠望で予想はしていたがこのルンゼを滑るコンディションではない。予定していた1つ手前のルンゼに焦点を絞る。

エントリーポイントは40度程の緩傾斜でボトムまで見通しが効く。雪の状態は2日前の降雪がたっぷりあり顕著な弱層は確認されない。ただ、気温の上昇で岩稜や側壁に着いた戸隠特有のキノコ雪の崩落が始まっており、ルンゼ下部はすでにそのソフトデブリで半分埋まっている。急がねば機を逸する。

三浦がファーストトラックを描く。重めのパウダーではあるがスプレーを上げ滑り降りノールへ吸い込まれていく。上からは見えないがスキーヤーズレフトの岩壁下でピッチを切る。続いて私、松岡が滑走。両岸を岩峰に囲まれたロケーションの中を滑り降りるのは戸隠ならではの。傾斜は45度超、ターン毎にスラブが発生するので極カルンゼ側壁を利用してターンし巻き込まれるのを防ぎながら滑り降りる。2ピッチ目で安全地帯まで一気に滑り降りる。雪が重くなり我慢の滑走だ。見上げると両岸の岩峰が聳え立ち何とも言いえない感慨にふける。ルンゼから抜け出し唐松の植林地帯に出るとクロカンのトレースがあり奥社参拝道に導かれ、最後は観光客の横を駐車場まで滑り降りる。

(須藤 正雄)



「九頭竜山東面」…右から2番目のルンゼを滑降

秋山郷・鳥甲山(山スキー)

2014/2/22

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)

厳冬の秋山郷、ひと昔であれば冬に行く発想は起きないほど雪深い秘境。最近では道路事情が良くなり大雪でもなければ比較的安全に入れるようになった。とは言っても道路から見上げるといつ雪崩れてもおかしくない急斜面、ガードレールの無い山道でスリップしたら彼の世行き。夜は走りたくない道だ。

前日に現地入りしてアプローチの黒木尾根を 1/3 ほど偵察を兼ねて登る。スーパーファットスキーで膝までの激ラッセル、さすがに普通のファットでは厳しい。

麓の民宿に泊まり朝4時に起きて出発。親切にも民宿のご夫婦も起きて見送ってくれた…オリンピックのフィギアスケート女子最終戦を観戦するためだった。一緒に観戦！

ヘッドンを点け昨日のトレースを追い、尾根に上がった頃に夜明け。しばらく激ラッセルをすると空を覆っていた雲が切れ始め白嵩、赤嵩の壁が浮かび上がってくる。朝日に輝くヒマラヤヒダが感動的だ。これを見るだけでも価値がある。

黒木尾根はアプローチと言ってもかなりの傾斜がある。強いところで40度以上ありラッセルの労力にプラスし雪崩の危険もある。安易に斜面を切っていけない。稜線に出るとようやく傾斜が落ち今までとは違った穏やかな山容になる。山頂直下で尾根は痩せるが雪が安定していたので赤嵩沢源頭の斜面から巻いて登る。山頂まで7時間、スーパーファットスキーで

なければ到底無理な行程だ。

山頂に着いた頃からガスが湧き始める。狙っているルンゼは初見、視界が効かない状態では入れない。1時間ほど粘ってみたが回復する気配がない。天気予報より寒気が降りているようだ。タイムリミットの12時を過ぎたので出戻りとする。それでも赤富士源頭部のオープンバーンだけは何とかできるので細かくピッチを切りシュプールを刻む。トラバース気味に登り返し往路の黒木尾根に乗る。ここからは一気に激パウを楽しむのみ。狙っていたラインを逃しはしたがこのパウダーだけでも十分満足のいく滑りができる。尾根は広く総じてブナの疎林、視界が効かないとルートファインディングが難しいが今日は登りのトレースがあり思い切り滑れる。林道に降りると雪がちらついてきた。

(須藤 正雄)

突鷄峰(山スキー)

2014/3/1 天候 曇り時々晴

25000 分の 1「榎」

メンバー 佐藤(康)

突鷄峰に行ってきました。

7:00 に入山。突鷄峰 12:00 に到着し、14:20 には山行終了。

用具とルート取りをちょっと変更したおかげか、割合早く下山できた。

(佐藤 康彦)

野谷荘司山(山スキー)

2014/3/16 天候 曇りのち雨

25000 分の 1「新岩間温泉」

メンバー 佐藤(康) 他会多数

雪崩事故で無くなった友人の追悼山行。

現場はデブリに覆われ 1ヶ月前とは雰囲気がかわり、春の様相になっていました。

(佐藤 康彦)



「白崑のヒマラヤヒダ」

柄沢山(山スキー)

2014/3/22 天候 雪
25000 分の 1「巻機山」
メンバー 佐藤(康)

清水部落 7:00～柄沢川～1600mから滑降 10:41～清水部落 11:03

先行者のトレースのお陰で堰堤まで体力温存ができ、快適な山スキーを楽しめたが、天候がイマイチで、下山したものの。集落についたら快晴で稜線が見える。上手くやれば山頂に立てたような気がしてちょっと後悔した。

(佐藤 康彦)

黒菱山(山スキー)

2014/3/23 天候 快晴

25000 分の 1「妙高山」「湯川内」「関山」

メンバー 佐藤(康)他会 3 人

杉の原スキー場トップ 9:00～三田原山～高谷池ヒュッテ～火打山 13:30～乙見尾根～黒菱山～ハンノキ平～黒菱川～澄川～発電所～発電所～岡沢集落 17:40

終始天気が良く、頸城、白馬の山々の眺望を楽しめたロングルート。快適な山行だった。

唯一の失敗は黒菱山北面を滑降中に片側スキーが外れ、スキーを履けないので、担いでアイゼンで降りたが、早く下降しようと、焦って転倒してしまった。直ぐに止まり、かすり傷ですんだものの危険だったと思う。

追記: 黒菱北面は2度目だが、いつもアイスバーン。これが当たり前なのだろうか…

(佐藤 康彦)

雨飾山(山スキー)

2014/3/29 天候 快晴

25000 分の 1「越後大野」「雨飾山」

メンバー 佐藤(康)他会 2 人

梶山除雪最終地点 8:20～梶山新湯～雨飾山ピーク手前 12:30?～梶山新湯～梶山除雪最終地点 15:00

集合時間に遅れてしまい、20 分のハンデを貰って先行者を追いかける。強兵の 2 人に追いつけるか? かなり不安であったが、作業小屋の手前で追いつき事なきを得た。

あとは坦々と雨飾山ピーク手前まで詰め、滑降した。

今シーズン初の快適ザラメ、デブリも上手く避けることができ、快適な春山スキーを楽しんだ。

(佐藤 康彦)

平標山・西ゼン(山スキー)

2014/3/2

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)、蒔田将弘(熊谷山旅会)

天候がイマイチなので前日に予定の山を変更し西ゼンへ。

三国の駐車スペースにはすでに数台の車、メジャー山だ。ヤカイ沢の積雪は少ない上にラッセルもほとんどなし。3時間弱で平標山着。視界は良くないがコンパスを切って西ゼンへ。アイスバーンであまり快適ではない。核心の第2スラブ上の滝も雪は割れ、クラストした上に不安定な腐れ雪が少々。傾斜が落ちるとやっと快適なフラットバーン、思い思いにシュプールを刻む。林道は消化試合にしては長く疲れる。

(須藤 正雄)

妙高山・東壁(山スキー)

2014/3/4

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)

出発が遅れ9時ようやくゴンドラに乗る。前山までは2日前の降雪でプチラッセル。妙高山山頂直下でスキーを背負い頂上へ。頂上には写真撮影のためボーダーがいるではないか。彼らは昨日三田原に1泊し登ってきて降り是我々と同じ東壁のライン。地元のK2契約ライダーで何度か東壁を滑っているようだ。

先に着いた礼儀で先にドロップしてもらおう。1ピッチ目はランペからノッチの乗越し前まで。ここでボーダーのカメラマンを待つ間に我々がドロップ。まずまずのパウダー。ノッチから先は我々が先行する。中間部はパック&表面クラスト、慎重にかつ大胆に滑り降りる。ダケカンバが出てくるころからは重めながらもパウ斜面、一気にボトムまで落とし込む。

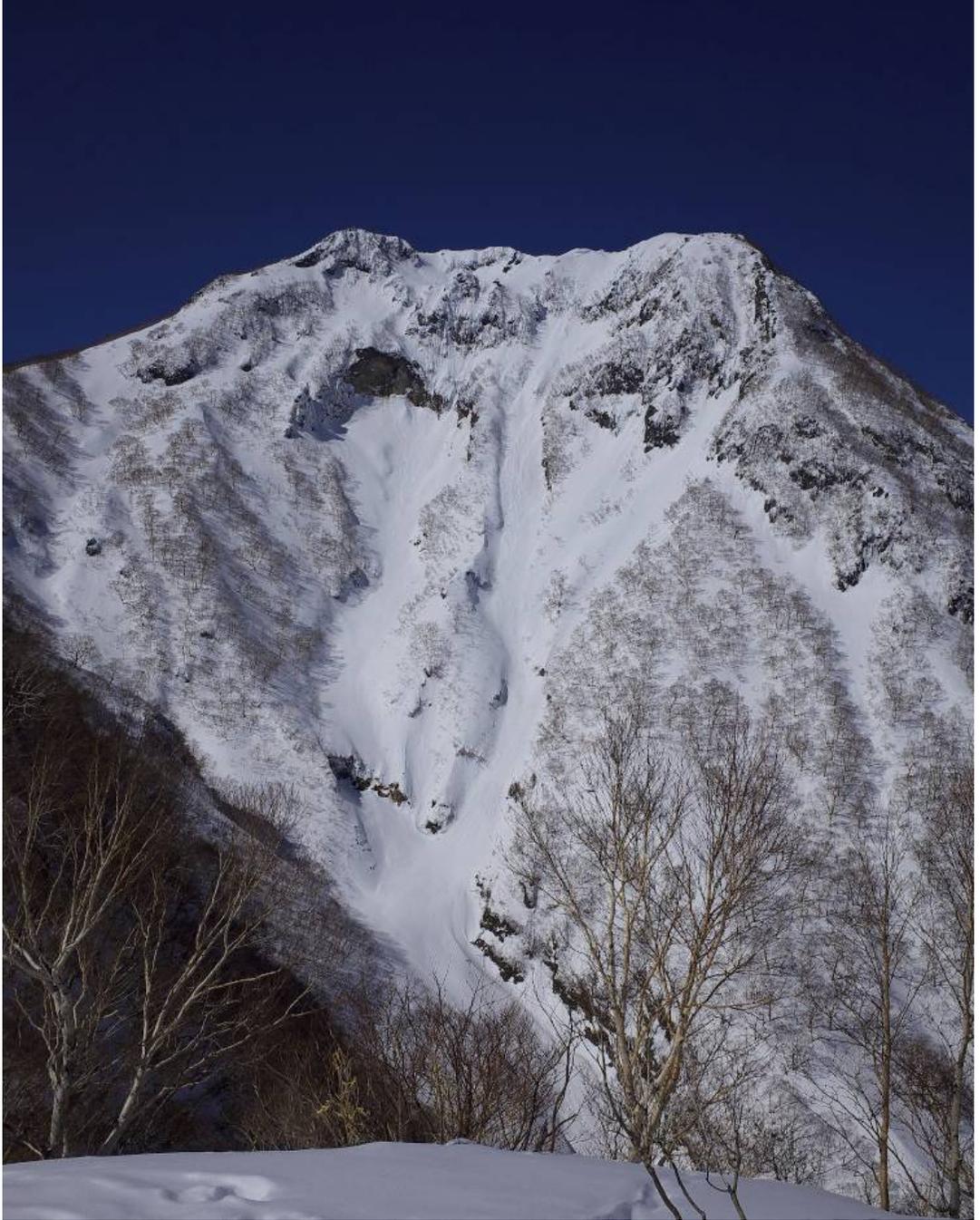
ここで三田原から降りてきたパーティーとすれ違う。(後で駐車場で会って聞いたら地元の山岳会で)彼らは前山には登り返さずにトラバースし旧赤倉チャンピオンへ回り込んで行った。結果的には前山には登り返した方が良かったようだ。

前山から滝沢尾根を快適にフィナーレと言いたいところだが春の腐れ雪で我慢のパワーターンでした。

(須藤 正雄)



「西ゼン下部のフラットバーン」



「前山から妙高山東壁」

平湯・大崩山(山スキー)

2014/3/12

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)

今日も真っ暗な平湯キャンプ場を出発。ファットスキーでラッセルは足首程度、ここでこれだけだとスーパーファットが欲しくなるところだが今日の予定ルートはスーパーファットでは厳しい。登るにつれラッセルは深くなり夜が明けるところには脛ほどのラッセルの連続になる。途中細く樹林が濃くなる尾根だが上部はダケカンバの疎林の素晴らしい斜面、予定の 6 時間強で山頂に立つ。天気は晴天なのだが PM2.5 だろうか空は霞んで隣の焼岳が霞んで見える。

課題の北面センターラインを覗き込むと 2 日前の降雪で発生した雪崩の跡(クラウン)が最初の急斜面に伸びている。雪の落ちた斜面はアイスバーンと容易に判る。あそこでミスって滑落したら雪崩を誘発しどこまで飛ばされるかわからない。中間部には滑走不能な崖があり巻かなければならない。今日もあきらめるしかないか。

さて、どこを滑ろうか。右ルンゼ上部は昨年滑ったし下部はロケーションがイマイチなので選択順位が下がる。8 年前に三浦さんが初滑降した左ルンゼを覗くときれいに雪が付いている。ピットチェックの結果いけると判断。気温が上がりギリギリの条件ではあるが決行する。複雑に入り組んだ尾根とルンゼ、目の前には空間があるだけでどこのチェックポイントに立っても下まで見通せない難ルート。快適パウダーあり、カリカリのアイスバーンあり、子尾根を乗越し崖を回避すること数回。よく初見で降りたものだ。急斜面帯を降りて振り返ると北壁が聳え立っているなかなかのロケーション。気温は上がり下部ゴルジュ帯を抜けるまでは安心できない。足に来ているが先を急ぐ。平湯大滝の上で往路の尾根に回り込み樹林帯を一滑りでキャンプ場に戻りつく。

初滑降はならなかったが充実の 1 日でした。

(須藤 正雄)

尾瀬・燧ヶ岳(山スキー)

2014/3/17

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、蒔田将弘(熊谷山旅会)

尾瀬にもステイプルートはある・・・三浦さんのお誘いで巨漢 3 人はるばる桧枝岐。ワンデイなので真っ暗な中桧枝岐を出発、七入で夜明け、御池までスノーモビルのトレースを追う。一般ルートの尾根をプチラッセル、ブナのからシラビソ、ダケカンバの疎林へと高度を上げるにつれ植生が変わっていく。森林限界を超えるとクラスト、さすがに山頂付近はカチカチでスキーを担ぐ。お目当てのシシ沢を眺めると・・・雪が付いていない。雪深い尾瀬のはずが岩岩岩！急斜面は風で飛ばされて雪が付いていない。こんあこともありか、出戻りを決める。

それでもワンデイで燧、プチパウの広大なオープンバーン、樹林の快適パウダー、十分滑りを楽しむことができた。べた雪林道のクロカンを除いては。

貸し切りの温泉で汗を流し、長い帰路に着く。

(須藤 正雄)



「熊沢田代から燧ヶ岳山頂 一番下手な私が一番飛ばしている」

八ヶ岳赤岳東面・杣添川南沢左俣右ルンゼ(山スキー)

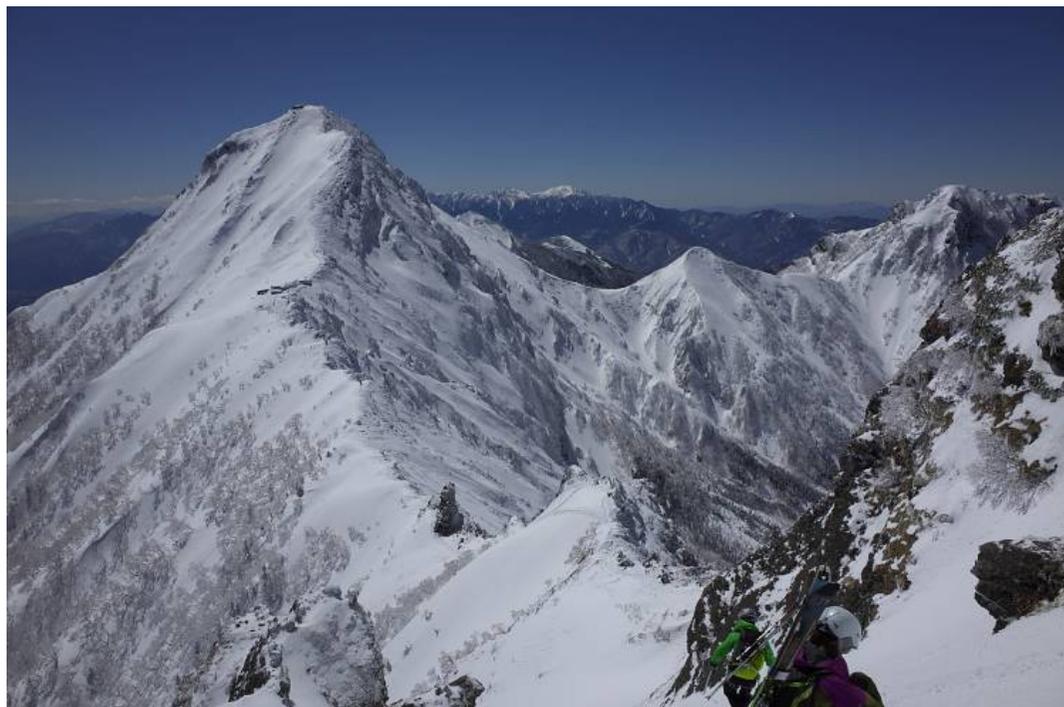
2014/3/22

須藤正雄、三浦大介(ぶなの会)、松岡祥子(RSSA)

前夜、野辺山駅に集合しテン泊。放射冷却で寒いなのんので。さすが日本最高標高にあるJRの駅だ。海ノ口の別荘地の駐車スペースから歩き出す。横岳に突き上げる杣添尾根は樹林が濃くどうひいき目にみてもスキーに適しているとは思えない。登るだけなら何とかなるが滑る気にはならない。2500mの森林限界を抜け出してやっと視界が開け赤岳の目的の斜面が見えてくる。2週続いた南岸低気圧の降雪で雪の付きは充分。気掛かりは頂上直下の雪質だけ。ここは八ヶ岳、山頂から全域パウダーは望むべくもない。

横岳稜線に着くと連休も相まってさすがに人が多い。岩場の難所もトレースがばっちり、おまけに珍しく快晴無風で暑いくらいだ。赤岳山頂にはたくさんの人。スキーを担いでいる我々を奇異な目で見ている人々を横目にピットチェック。以外にもパックパウダーで傾斜もせいぜい45度。これはもらった！時間も13時半過ぎ、急ぎドロップする。硬い面もあるがおおむねパウダー、富士山を横目に思い切ってターンを繰り返す。それほど快適とはいかないが赤岳山頂から滑れたことで十分満足。オープンバーンが狭くなってくると最大傾斜の核心部。広いルンゼは絞られノールとなっている。下は氷瀑が予想されるので右の小尾根を巻くように回避、その斜面は今までとは打って変わってドライパウダーが残っており、ひと時の快楽を味わう。さらに下は狭いルンゼが複雑に入り込みルートファインディングが難しい。右、右へとラインを移動し安全地帯に落とし込む。樹林帯に入ったあたりで一心地、振り返ると滑ったラインが一望できる。傾斜の落ちた沢をしばらく降り、樹林が薄くなったところで左に入ると林道に出る。小一時間ほど林道を登り返すと往路との交点に到着。シールを付けたまま別荘地に降る。

もしかしてこの沢を下まで滑ったのは初か。感慨にふけるのであった。 (須藤 正雄)



「横岳から赤岳」

鳥海山・千蛇谷(山スキー)

2014/3/28

須藤正雄(単独)

昨年のGW明けに行った時には時期すでに遅し！ アプローチ藪漕ぎ敗退した千蛇谷。今

年は雪のたっぷりと残っている3月にチャレンジ。

横川第一発電所からの歩きを覚悟していたら中島台キャンプ場まで除雪されていた。雪が多いと思っていたら標高の低いところは例年並み、今年もGW過ぎでは遅いかも。

4時半、暗いうちにキャンプ場手前から林道に入り前進あるのみ。ここから新山山頂まで標高差1900m、水平距離も10数Kmある。取水口手前から尾根、と言っても広いブナの台地をひたすら進む。ラッセルはなし、クラストもなし。標高900m地点、いきなりブナ林が途切れ一面の大平原が現れる。新山はまだ遥か彼方、遠くに望まれる。素晴らしい景色なのだが先の長さに心は重い。1200m付近よりザラメはアイスパーンに変わり登りにくい。スキーアイゼンを付けると抵抗が大きく体力を消耗するのでしばらく我慢して前進。1700m付近でスキーアイゼンを付ける。全身エビノシッコをまとった外輪山の壁が近づくころには少しながらパウダーも現れ滑りも期待できそうだ。登り始めてから6時間、新山山頂到着。クラストもさほどではなく全てスキーで登りきる。

快晴微風、最高の山スキー日和。出発した時は霧雨だったがそれは雲海の名残、出発地点はまだ雲海の中だ。クラストが緩むまで1時間ほど頂上でのんびり過ごし、11時半滑走開始。さすがに頂上付近はクラストのまま。しばらくは我慢の滑り。1700mまで降りてくると雪の表面は少しずつ緩み始め、いつのまにか素晴らしいザラメに変わっている。前後左右どこまでも続く広大なフラットバーン、自由気ままにシュプールを描ける。止まるのがもったいない！一気に1000mまで滑り降りる。さすがに1000m以下は春のストップスノー、車まで1時間上半身の鍛錬だ。13時、車着。下りはあっという間、山スキー万歳！（須藤 正雄）



「千蛇谷の広大な斜面」



「大崩山山頂から乗鞍岳」

キナバル登山

日時: 2014/3/21-22

場所: マレーシア、コタキナバル

メンバー: 伊藤、ガイド、他

仕事でタイに赴任して10か月。当初まとまって休みが取れるとは思っていなかったが、幸か不幸か会社の生産調整が入った。さてどこに行こうかと考えていたところ、知人からソクラン(タイの正月休み)に予定していたキナバル登山にでも行けばいいじゃんという事になり、急遽予定を前倒してキナバル登山を決行することにした。

といっても日本と違い単独山行ではない。旅行会社が企画する1泊2日のガイド付き登山(下山のヴィアフェラータ上級コースを含む)のパッケージツアーに参加するという形だ。約7万5千円のツアー代金が高いか安いかは各人の判断に任せるとして、一度は行って見たかったところである。

さて、せっかくなのでコタキナバルについて少し紹介したい。キナバル山のふもとの町であるコタキナバルは、マレーシア本土から離れたボルネオ島サバ州の北部にある。人口は55万人ほど。中心部はショッピングセンターや繁華街が立ち並ぶ発展した街並みだが、郊外に出ると昔ながらの熱帯の景色が広がっていた。人々の顔立ちは先住民のイスラム系マレー人が多いが、中華系も多い。それ以外では中国・韓国をはじめとする近隣諸国、欧米、

インドからの観光客が多い感じがする。公用語はマレー語だが、英語もほとんどのところで通用する。しかし文字の表記はアルファベットなのに読みはマレー語だったりして違和感がある。例えば TAXI が TEKSI であったりして、あれ？っという感じになる。物価は日本に比べると約 1/3 と安い、缶ビールがコンビニで 1 本 RM10(約 300 円、RM1 ≒ 30 円)近くしました。イスラム文化の影響なのでしょうか？

登山初日、ツアー会社の用意したバンに乗り込み登山口へ。1 時間半ほどかけて標高 1550m 程のキナバルパークへ到着する。そこで待ち構えていたのはこれからお世話になるガイド J 氏。小柄で日焼けした風貌からいかにも現地のガイドといった貫禄がある。管理事務所ですり入山手続き・ガイド申請を行い、いざ出発と思いきや、ガイドが車で待てという。どうやら登山口はここからさらに 300m 登った先で、他の登山客が来てから出発という事が後でわかった。仕方なく外でぶらぶらする。公園からは山頂の景色が見える。日本では見た事のない特異な形をした山である。幸い車はすぐ出発し、一行は登山口へ。Welcome と書いてあるようなゲートをくぐり、ゲートで登山許可証を見せていざ出発。

登山道は歩きやすく整備されており、山頂まで約9kmの道のりだったと思うが1kmごとに休憩所があり、初心者でもマイペースに行けば順調に山頂へ行けそうな感じがした。山の感じは北アルプスみたいな印象を受けた。思っていたよりも熱帯の山という感じがしない。植生もウツボカズラ(ピッチャープラント)を見たときに物珍しさを感じたが、実際のところ少々退屈な感じがした。J 氏と会話を試みるもどうもかみ合わない。お互い英語が得意でないため、浅い会話がやっとだ。そんなためか他のガイドとおしゃべりに夢中になって見えなくなったり、休憩中に勝手に先に行ってしまったりとなかなか癖のあるガイドさんだった。でも本日の宿泊地付近に近くなるとまたペースを合わせてくるあたりは、最低限の事はわきまえている感じであった。歩き始めて約 4 時間半。若干の高山病になりつつも本日の宿泊地 3289m のペンダントハットに到着する。時刻は 13 時半前で、どうやらまだ前日の宿泊者がいるようで待機を命じられた。この周辺にはいくつもの宿泊施設があるがこのペンダントハットはヴィアフェラータ専用の宿泊施設である。ヴィアフェラータとは欧州などの岩山で、安全具を付けてそのスリルと自然の景観美をめぐるアトラクションみたいなものらしい。参加する人はその安全講習があるためここに宿泊することになっているという。

やがて部屋が空き、くつろいでいると聞きなれた言語が聞こえてきた。日本人の若者たちのグループだった。年齢は 25 ぐらいか。聞くと関西方面からの人たちで旅行が好きとの事。山やといった感じはなかったが、感じのいい人たちだった。仮眠後講習会が始まった。説明はすべて英語。実際にすることは全員がロープでつながり、安全具をワイヤーに通しながら進んで行くというわかりやすい内容であった。しかしこまかい注意事項や説明なんかはなんとなくでしか理解できなかった。質問しようにもどう言えばいいのか分からないのであれば前もって準備が必要だろう。そのあとラバンラタレストハウスという一番大きな小屋に移動し、山小屋とは思えない豪華なバイキング形式の夕食を頂く。夕食後、夕日にかかる壮大な岩

壁を眺めて 19 時前、明日に備えて就寝。

深夜 1 時半起床。2 時半に山頂に向けて出発する。ガイドの J 氏が暗い道を簡単な靴でスタスタと登っていく。途中急こう配が続く、初心者があえいでいる。急こう配を登り終えると、ロープ沿いに大きな岩壁を右に左にトラバースしながら登っていく。途中遠くに町の明かりが見えた。サヤッサヤッ小屋という最後のチェックポイントを過ぎると我々の他には欧米人のグループが見えた。ちょっとした登りを越えると辺りは一面緩い岩の斜面になり、木々がない荒涼とした風景に変わってきた。特異なピークが次付と顔をだし、薄闇と人々の明かりが相まって幻想的な雰囲気醸し出している。そして 5 時過ぎ、無事登頂。標高 4095m のロウズピークは北東側がバサツときれ落ちたキナバル山の最高峰である。もしこれが霧でホワイトアウトしていたり、暴風雨であったなら恐ろしい山になるであろう。そして待つこと 1 時間、無事ご来光を拝むことが出来、迫力のある風景を堪能することが出来た。

下山途中で今回のもう一つのお楽しみであるヴィアフェラータに参加する。すでにスタッフとスウェーデン人カップルがいた。参加者全員そろっていなかったが、いるメンバーからスタートすることになった。昨日の講習と同じように安全具をつけ、全員をロープで結び、先頭にリーダー、最後尾にこのアトラクションの専用ガイドという隊列に組んだ。スウェーデン人彼氏、彼女、私、ガイドの順で下降していくことになった。ハーネスに取り付けた安全 2 本のカラビナ付ロープをワイヤーに交互にかけながら下降していくというもので、操作さえ問題なくやれば危険の少ないアトラクションだった。スウェーデン人の彼女はこういうことは初めてだったようで、なかなか苦戦をしていた。もし稜友会の経験がなければ私もかなり臆していたに違いない。一枚板渡りや綱渡りなどスリルと高度感は十分楽しめた。個人的にはサッカーの長友選手に似た顔つきのガイドさんとの会話が楽しかった。英語がうまく話せない私に、ゆっくりとわかりやすいように色々話しかけてきてくれたのがうれしかった。常に全体を気遣い、時に面白いことをいう性格だったのですっかり彼の人が気に入った。今後もがんばって続けてほしいものである。終点はペンダントハットの少し登った先に出るため、再び小屋に立ち寄り、昼食をとる。そして 12 時頃、再び J 氏と下山を共にする。

小屋から登山口までの標高差は 1400m。14 時半頃に登山ゲートに着いた時には脚に相当疲労が来た。駆け足の下山は体の負担が大きく、その後疲労が取れるまで 1 週間を要した。

下山後は J 氏と別れの挨拶をする間もなく慌ただしくツアー会社の担当者と合流し、食事を取りコタキナバルへ。すぐに風呂に入ってくつろげないのが辛い。下山後すぐさっぱりしたい人は公園近くのロッジか、ポーリン温泉という露天風呂に立ち寄るのが良いだろう。

キナバル登山を終えてみて、行く前はもっとハードルの高いものを感じていた。しかし手続きとかを旅行会社やガイドにお任せすれば、意外と何とかなるものだというのを実感した。比較的容易に登頂が出来、安全であるという面では海外登山初心者にお勧めの山であるというもうなずける。海外登山(トレッキング)というジャンルについて今後登山の選択肢に

入れてみたいと思う。

(伊藤 滋生)



今月のコラム

男性は60歳、女性は65歳あたりから体力の落ちるスピードが速くなると聞いたことがある。私にはおおいに納得する次第です。フルマラソンでは58歳でなんとか4時間切っていたが、それ以降はそのタイムになる記録はだせなくなった。

そのうえ脊柱管狭窄症で一般にいう坐骨神経痛になり山登りやランニングに支障が出てきた。それでも体力がすこしでも落ちないように現状維持に、亀田体育館で足腰の痛みとうまく付き合いながらトレーニングに通っています。

一日でも長く山登りが続けられるためにも頑張りたいです。

(佐藤 孝栄)

● 会費について

☆会員 年会費9,000円 (夫婦会員は2人で16,000)

保険料 5,000円～ 月割可 (詳細は金子まで)

☆会報会員 年会費1,000円 (月報の電子配信会員)

- ・ 1月末までに下記講座への振込をお願いいたします。

郵便局 記号: 11220 番号: 23683431 口座名: 新潟稜友会

- ・ 不明な点は丸山亮子まで

● 会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。

会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。

会員専用掲示板は一般公開されません。

公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。

アドレス: <http://8421.teacup.com/msudou/bbs>

携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。

ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

● 万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入って下さい。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に
金子・海老名
まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 5月10日(土) 担当:関川 まで

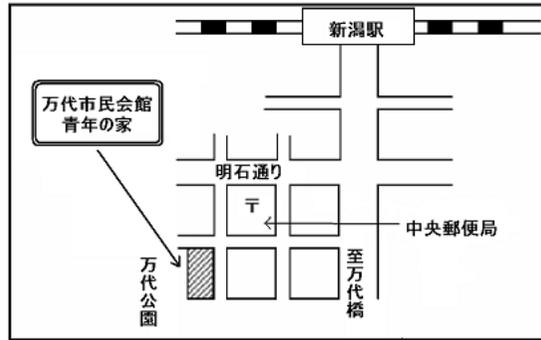
●原稿形式

形態を () で
日付は全角、西暦で 地図・地区もなるべくつけてください
鳥海山湯ノ台口(山スキー)
2000年6月3日(土)~4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」
メンバー L.
3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで
本文
(橋本寅信)…カッコでフルネーム

★表紙に写真を載せて欲しい人は月報担当者にネガ(または写真)を送るか、電子データとしてメールで送って下さい。表紙以外で写真を載せて欲しい人は担当者に渡して下さい。テキスト形式が基本ですが、ワードで原稿を送ってもOKです。FDの場合は、プリントアウトしたものを同封して下さい。

新入会員募集中！

毎月第3水曜日pm7:30~万代市民会館4階の「青年の家」にて集会を開催しています。気楽に顔を出して下さい。詳しくは、TEL 025-223-0393 金子恒夫



[編集後記]

新潟の桜も満開となり天候も安定し、ようやく春本番といった感じとなる。入学式・入社式も済み一段落、全体に平静を取り戻しつつあるようだ。公募登山はなかなか人が集まらないようだが、そう簡単に人が集まるはずもないので、気長に取り組まざるを得ないだろう。

先日、上京した折に石井スポーツ登山本店に初めて寄ってみた。店内をじっくり回る余裕は無かったが、品揃えは豊富だった。私がよく利用する古本屋のすぐ近くにあったが、蔵前通りを挟んで反対側にあるので、今まで全く気付かなかった。今回も“灯台下暗し”を実感した。(〇)



月報「稜友」Aprial, 2014 No.232 2014年4月16日 発行

発行者 新潟稜友会 代表 金子恒夫

〒951-8081 新潟市寄附町 5006 Tel 025-223-0393

